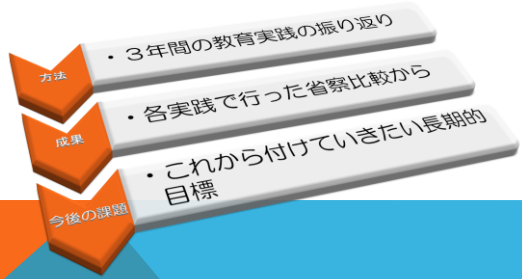
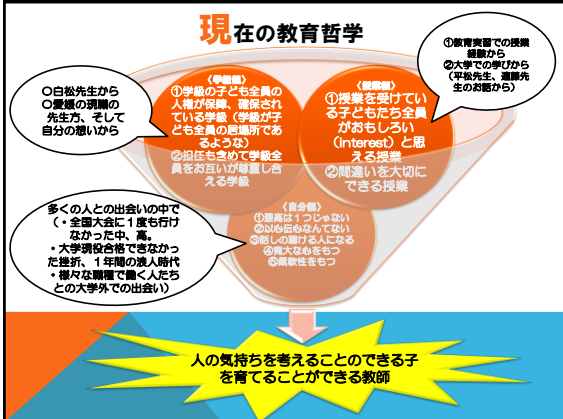


3年間の軌跡から見る成長 ～理想の教師になるために～

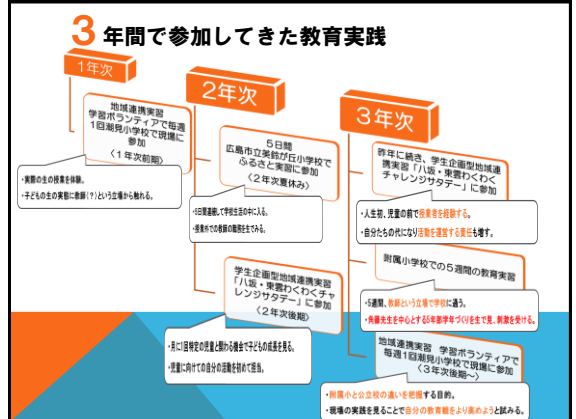
TEACHING PORTFOLIOの構成 ～プラクティクス・ログ、リフレクション・ログを中心に～



現在の教育哲学



3年間で参加してきた教育実践



1年次のFICにたてた目標と省察

- 【1年次目標】
- ・先生の子どもに対する言葉づかいに留意してみる。
 - ・2年生と4年生に対する担任の先生方の生徒の接し方の違いに留意し、その違いがどのように異なるかを観察する。
 - ・4年生の子ども同士の友人関係(グループ)は2年生の友人関係とどのように違うのかを観察してみる。
- 【省察】
- ・子どもが喜ぶようにやさしく誉めたりしていることは注意してみるともの凄くよく分かりました。
 - ・ゆえに小学2年生の子どもを相手にするように接していれば、子どもたちは物足りないだろうし、かといって、あまりに突き放して接することも好ましくないように思います。
 - ・4年生にもなると、2年生みたいな男女のかかわり方(異性としてあまり区別をつけていないような)とは明らかに異なっていました。
- ☞表面的な目標、省察が多い。省察の中にも自分の経験や考えとの比較が少ない。絶対的な教育実践経験が足りていない。

2年次のFICにたてた目標と省察

- 【2年次に実践にたてた目標&行った振り返り】(・目標 ⇒省察)
- ★ふるさと実習★
- ⇒低学年と高学年の授業を比べれば指示の出し方や声のかけ方が当然のことがかなり大きく異なることに気が付きました。
 - ⇒教室が綺麗、汚いなどで子どもたちの集中ができやすいかどうかの関係性が少なからずあるのではないかとこの考えをもってきました。
 - ⇒子どもたちの微妙な心情をわかってやることのできる力をつけたいです。
- ★わくわくチャレンジサタデー★
- ・自分と子どもたちの距離を縮めるよう努める。
 - ⇒「先生が手伝ってくれてうれしかった。」書いてくれていたことがすぐうれしかったし、H君との距離は縮めることができたかなと思いました。
 - ・子どもたち一人ひとりの交友関係やそれぞれの特徴を意識して観察する。
 - ⇒グループを崩して活動させたりすることの難しさも同時に感じました。
- ☞児童とのかかわりから学習環境などの視点も増えていく。児童との距離間において誤って考えている部分も見える。

1、2年次からの考察

〇1, 2年生の頃から教育実践に参加⇒自分は将来、**教師になるという思い**。

1年次
★徐々に**児童の実態把握**に目を向けるようになっていく

★教師とは児童にどのように接しているのかということを探求している時期

2年次
★個々の児童の実態を見る視点から、**児童同士(グループ間)のつながりを見る視点**。
★児童の**環境面**に目を向ける視点が芽生える。

★児童の実態把握に目を向ける視点を大切に

3年次 教育実践の中でたててきた目標とその省察

【3年次に実践にたてた目標&行った振り返り】(・目標 ⇒省察)

★わくわくチャレンジサタデー★

⇒子どもの意識、集中が変わっていく瞬間を注意して観察する

⇒子どもの意識の流れはもっと多くの場面で、これからも注意深く観察していきたい。

・子どもの実態を強く意識しながら活動に臨む。

⇒どのように子どもに**課題意識**を持たせるか、

・子どもの見せる表情の違いに注目する

⇒子どもたちは環境や形態、そして活動や内容の違いで、いろんなことを学び考える。

・子どもの他への**かかわりの様子**を全体を通して観察する

⇒自分たちが率先して動いていくというのが今後の課題です。

⇒**間**というものがとれなかった 指示の工夫ということ 子ども**の前**で立って説明をしていた位置も前すぎたので

3年次 教育実践の中でたててきた目標とその省察

【3年次に実践にたてた目標&行った振り返り】(・目標 ⇒省察)

★附属小学校教育実習★

・自然の学校での子どもたちと、普通の学校での子どもたちの様子を比べる。

⇒今の**学級**の中での態度や表現方法だけで子どもを判断するのではなく、しっかりと子どもたち一人一人のことを見ていかなければならない。

・子どもの前で教師としての態度を意識する。

・多面的に授業観察を行う。

⇒**普通教室**ではなく、**理科教室**という環境の違いについて注目して授業を観察しました...それによって子どもの集中や意識も変化する...

・いつも以上に**視野**を広くもつことに意識を置いて学級を見る。

⇒広い視野からの児童理解をすすめるようとする態度。授業の内容、流れ、学習環境に伴った児童の反応把握に努める姿勢。学級づくりへの意欲向上。観察的な考察が多く、児童とのかかわりに対するウェイト不足。

3年間の考察

〈3年時〉

★3年間の経験を通して様々な角度から児童を“みる”ことで多面的に**児童理解**を深めようとする姿勢の定着。

★授業は児童のために行うものであるという大前提の認識。

★1つの授業を**多角的**に見る視点。

(角、距離、指示、教師環境、机の並び)
★教師という立場を意識しての児童の接し方を強く意識

〈1,2年次〉

児童観察、環境に目を向ける視野⇒すぐあいて、表面的なものしか見ていない。

自分と児童との距離が近づければいいものという考え。

TPの作成を通し実感した自分の成長・長所



TPの作成を通し見えてきた課題、これからつけていきたい力

